

各クラブ指導員殿

スペシャルトランポリン交流大会  
クラス分け変更についてのお願い

近年、障害者スポーツが注目されています。

来年3月には、第7回スペシャル交流大会が茨城県守谷市で開催されます。

より良い大会を目指すために、交流大会の内容を検討し見直ししながら現在に至りましたが、大会を重ねていくうちに、障害程度の違う選手が同一クラスで演技することに根本的な課題が見えてきました。

より大勢の選手が参加しやすい交流大会にしていくために、重度・中度・軽度の選手に対応できるクラスに設定しました。

これは、演技などの向上や言葉の理解、コミュニケーションの取り方など選手の努力や成果を各レベルに合わせて評価してあげたいという趣旨です。

あくまで、クラス分けをマイナスにとらえるのではなく、各選手の成果や努力を重んじ、尊重する内容をご理解いただきたいと思います。

さらに良いご意見等があれば参考にし、今後の大会運営、競技内容の発展に生かしていきたいと考えています。

今後ともより一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

前回大会までの難度点でのクラス分けを廃止して、以下に該当するような選手をBクラス及び5種目の部とし、参加選手が出場するクラスの基準を参考にしてください。

- 1、声かけ、模倣がなければ演技が難しい。(種目を覚えるのが困難)
- 2、演技終了時に静止するのが難しい。
- 3、演技の種目の間にストレートジャンプが入らなければ演技が難しい。
- 4、指導者、コーチの誘導なしでは、行動できない。(こだわりがある)

# スペシャルトランポリン交流大会競技規程

## スペシャルトランポリン交流大会競技(発表)部門及び競技内容について 競技(発表)部門及び内容について

### ① 個人10種目SSクラス

(公財)日本体操協会競技規則を適応し、演技構成に1種目0.6点以上の難度点の宙返りを  
含む構成とする。跳躍時間点は導入しない。

競技は、自由演技の試技を2回行う。2回目の試技順は、1回目と同じ順番で行う。順位は2  
回の試技の演技得点の合計によって最終順位を決定する。ただし、同点の場合には、2回  
目の試技の演技得点で最終順位を決定する。

演技得点は、演技点と難度点の合計とする。

安全を考慮するため、コーチ引率を必ず必要とする。

### ② 個人10種目Sクラス

(公財)日本体操協会競技規則を適応し、演技構成に1種目0.5点以下の難度点の宙返りを  
含む構成とする。跳躍時間点は導入しない。

四つん這い、膝落ち、ターンテーブルは種目として認める。

競技は、自由演技の試技を2回行う。2回目の試技順は、1回目と同じ順番で行う。順位は2  
回の試技の演技得点の合計によって最終順位を決定する。ただし、同点の場合には、2回  
目の試技の演技得点で最終順位を決定する。

演技得点は、演技点と難度点の合計とする。

安全を考慮するため、コーチ引率を必ず必要とする。

### ③ 個人10種目の部

(公財)日本体操協会競技規則に準じ、一部スペシャルトランポリン交流大会特別規則を適  
応する。(別紙参照)

出場区分はAクラス、Bクラスに分かれる。クラス選択については、別紙クラス分けの内容の  
考え方を基準にA、Bクラスを設ける。共に部門については年齢により一般、中高生、小学  
生の3部門とする。

競技は、自由演技の試技を2回行う。2回目の試技順は、1回目と同じ順番で行う。順位は2  
回の試技の演技得点の合計によって最終順位を決定する。ただし、同点の場合には、2回  
目の試技の演技得点で最終順位を決定する。

#### Aクラス

声かけ、模倣は不可とする。

四つん這い、膝落ち、ターンテーブルは種目として認める。

演技得点は、演技点と難度点の合計とする。(別紙参照)

## **Bクラス**

声かけ、模倣は可能とする。

四つん這い、膝落ち、ターンテーブルは種目として認める。

演技得点は、演技点と難度点の合計とする。(別紙参照)

### **④ 個人5種目の部**

(公財)日本体操協会競技規則に準じ、一部スペシャルトランポリン交流大会特別規則を適応する。(別紙参照)

部門については年齢により一般、中高生、小学生の3部門とする。

競技は、自由演技の試技を2回行う。2回目の試技順は、1回目と同じ順番で行う。順位は2回の試技の演技得点の合計によって最終順位を決定する。ただし、同点の場合には、2回目の試技の演技得点で最終順位を決定する。

演技得点は、演技点と難度点の合計とする。(別紙参照)

### **⑤ 演技発表の部は、個人の部、シンクロの部の2部門とする。**

#### **個人の部**

1回の発表を行う。その内容を(公財)日本体操協会普及部障害者委員会の審査によりユーモア賞・ダイナミック賞、スマイル賞 を授与する。

他者と競うものではなく、練習成果を発表する場とする。

- ・コーチ・指導者同伴の演技を認める。
- ・マット、縄、フープ、ボール等、トランポリン器具以外の用具利用を認める。
- ・演技内容の紹介は、各クラブ、団体が行う。
- ・発表時間は、コール後90秒以内とする。

**※発表内容はトランポリンを使用している内容であれば自由としますが、怪我や危険を伴う内容は認めない。(無理な姿勢での跳躍、台から台への跳び移り...等)**

#### **シンクロの部**

1回の発表を行う。内容は通常の10種目とし、個人競技の参加との重複エントリーを可能とする。ペアについての制限はなしとし、年齢、クラスが違う場合、その他保護者や、コーチ、指導者等のペアでも出場可能とする。

他者と競うものではなく、練習成果を発表する場とする。

※競技と演技発表はかねることはできない。

※クラス選択は、選手の怪我や無理がないように、コーチ・指導員が判断してください。

## スペシャルランポリン交流大会(特別規則)

### 1) 演技途中の跳躍に関わる減点

- 1-1 演技の途中に、跳躍(技と判断できない)を行った場合、演技内容に含まれる跳躍ごとに0.5点の減点がなされる。

※跳躍を何本入れても中断にはしない。

### 2) 跳躍の超過に関わる減点

- 2-1 10種目以上の演技構成を行った場合、本数にかかわらず1.0点の減点がなされる。

### 3) 最終種目の着地またはその後の安定性の欠如(チェック減点)

- 3-1 静止(チェック)及びフィニッシュポーズのある場合・・・-0.0点  
3-2 静止(チェック)及びフィニッシュポーズのいずれかがある場合・・・-0.1点  
3-3 静止(チェック)及びフィニッシュポーズの両方ともない場合・・・-0.2点  
3-4 アウトバウンスに関する減点はなしとする。

### 4) 演技の中断

- 4-1 片足着地した種目は種目として認めず、演技はこの片足着地をもって中断とする。  
4-2 演技途中に立ち止まった場合、演技の連続性がないものとし中断とする。

### 5) 難度点について

- 5-1 技の反復は可能とする。但し、難度点には反映されない。

### 6) 声かけ、模倣について

- 6-1 声かけ、模倣をする指導者、コーチは補助台の上のまっすぐな所のみとする。  
6-2 各方向1名のみとし、最大2名の指導者、コーチを認める。  
6-3 台の下、フレームパット、補助台の傾斜のある場所での声かけは認めない。  
6-4 台の上に上がった指導者、コーチは必ず直立状態から行う。(安全性の考慮)

### 7) その他

- 7-1 フィートバウンス(タック・パイク・ストラドル)は、演技構成に何本入れても良い。  
7-2 「膝落ち」、「四つん這い落ち」、「ターンテーブル」は演技種目として認められる。  
※側方向軸の技はターンテーブルのみとする。  
※「四つん這い→1/2捻り四つん這い」は認めない。  
7-3 SSクラス、Sクラス以外の部門は宙返り(重心が頭部より上になる種目)は演技構成の中に入れてはいけない。  
7-4 跳躍時間点は導入しない。

## 得点算出方法

### 演技点

- 10種目の部は10.0満点(10本の技)の演技得点によって採点される。減点は、演技種目ごとに減点される。(1種目0.0~0.5の範囲の減点)
- 5種目の部は5.0満点(5本の技)の演技得点によって採点される。減点は、演技種目ごとに減点される(1種目0.0~0.5の範囲の減点)が、最終得点は、5種目の演技点の合計に5.0点を加算し、演技点とする。なお、有効本数や追加減点により減点する点数が5.0以上あった場合や有効本数0本の場合でも5.0点以下にはならない。(最低点を5点とする。)

例) 5種目の部の場合

$$3.0\text{点}(5\text{種目の演技点})+5.0\text{点(加算)}=8.0\text{点}$$

### 難度点

•例) 難易度

1、フルシート	0.2
2、スイブル	0.1
3、ハーフスタンド	0.1
4、ストラドルバウンス	0.0
5、ハーフピルエット	0.1
6、シート	0.0
7、フロント	0.1
8、スタンド	0.1
9、タックバウンス	0.0
10、フルピルエット	0.2

### 演技得点

1審	2審	3審	演技点合計	難度審	演技得点
8.0	8.1	8.1	24.2	0.9	24.2+0.9=25.1点